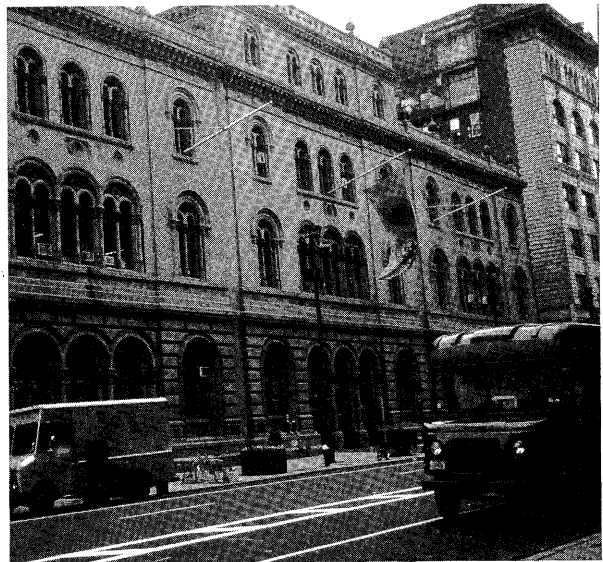


12. The PUBLIC THEATER

パブリック・シアターでは、ボランティア制度はないが、インターン制度が導入され、運営の上で成果をあげている。米国の文化施設ではインターン制度を導入しているところは多く、ボランティアに準ずる存在として考えることができるため、その一例としてパブリック・シアターの事例を調査した。

施設・運営の概要

運営母体	The Public Theater
所在地	425 Lafayette Street, New York, NY 10003
TEL	212-539-8680
FAX	212-539-8505
開館年月	1965年
複合形態	複合館
施設特性	演劇劇場
座席数	91～299席までの6劇場
年間運営予算	年間12.1億円(1,100万US\$)
自主事業数	—
立地都市人口	731万人(1992年)
組織体制	有給スタッフ約65名



😊 インターン制度の概要

名称	インターンの導入状況は各部署の裁量に任されている(以下はコミュニティ事業部における内容)
導入時期	・1993年(コミュニティ事業部の設置年)
登録人数	・3名(ヒスパニック系2名、黒人1名)
導入の経緯	・これまで当劇場に縁の薄かった黒人やヒスパニック系、アジア系などのマイノリティの人種を観客として巻き込むため、その水先案内人となるインターンを採用。
活動内容	・今までパブリック・シアターと無縁だった人を観客として連れてくること
募集方法	・特に系統だった採用制度は採っていない。理事会役員からの紹介やコミュニティ事業部ディレクターのコネクションによって。
研修	・最初にヒントを与え、あとはインターン独自の考えと行動に任せる。「経験を積んでいる」という意識ではなく「仕事をしている」という意識で働いてもらう。
実費支給	・勤務時間は週20時間以上40時間以下(月～金の10時～16時)、週給は一律50ドル。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンのプロフィールや動機はまちまち。劇場の運営も知っておきたいと考えた女優、イエール大学のアート専攻の黒人などで、コミュニティ事業部の新しい観客開発に力を発揮できるバックグラウンドを備えた人が採用されている。 ・劇場側のスタッフは、彼らをチームの一員として扱い、手足の係り、雑用係にはしないよう心がけている。 ・パブリック・シアターのインターンで実績と経験を重ね、実際にリンカーン・センターのマーケティング課に就職した人もいる。